

資料編

「熟議 2016 in 兵庫大学」開催結果

1. 日 時 . . . 平成 28 年 11 月 20 日（日）10：00～15：30

2. 場 所 . . . 兵庫大学（加古川市平岡町新在家 2301）

3. 主 催 . . . 兵庫大学・兵庫大学短期大学部

4. 共 催 . . . 加古川市

5. 参加者数

・参加者	63 人（内 学生 7 人、高校生 43 人）
・傍聴者	21 人
・学生ファシリテータ	10 人
・司会者	1 人（参加学生と重複）
・登壇者	5 人
・メインファシリテーター	1 人
合計	100 人

6. 熟議プロジェクトチームメンバー

田端 和彦 森下 博 中本 淳 中井 玲子 米野 吉則 斎藤 正寿
小林 洋司 岩崎 治夫 柏村 裕美

7. 後援

兵庫県、兵庫県教育委員会、高砂市、稲美町、播磨町、
加古川市教育委員会、高砂市教育委員会、稲美町教育委員会、
播磨町教育委員会、（公財）兵庫県生きがい創造協会、
神戸新聞社、BAN-BAN ネットワークス株式会社

8. 協力企業（お菓子の提供）

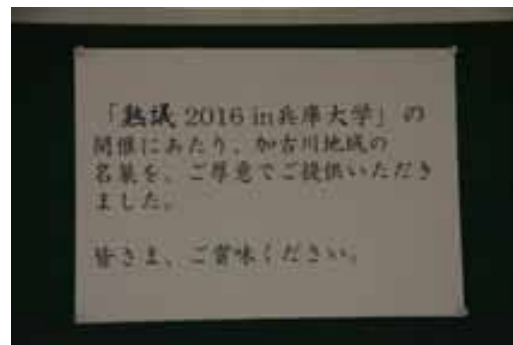
株式会社春光堂、ニシカワ食品株式会社、株式会社奈央

9. 実施風景写真



以上

ご提供いただきました御菓子



ありがとうございました！！

熟議 2016 in 兵庫大学

修了証書

〇〇 〇〇 殿

あなたは『熟議 2016 in 兵庫大学』において、「今、大地震が加古川地域を襲ったら？」について熟慮し議論を行い共有して、熟議のプログラムを修了したことを証します。

2016 年 11 月 20 日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部
学長 河野 真



ユーザー : ●●●●●

パスワード : ●●●●●●●●●●



URL : <http://www.hyogo-dai.ac.jp/jukugi/pass2016/>

自己認識シート(事前評価)

学校名			学年	年
科・コース				
氏名				

※下記に示された各能力に対し、今のあなたに当てはまるところを④レベルの欄の1～5を○で囲んでください。

①能力	②能力の説明	③「できること」の具体例	④レベル				
			かなり自信がある	自信がある	ふつう	あまり自信がない	まったく自信がない
自主性	物事に進んで取り組む力	☐ 自分の目標や課題を定め、進んで取り組むことができる ☐ 物事に対して、興味や関心をもって意欲的に取り組むことができる ☐ 困難なことでも前向きに取り組むことができる	5	4	3	2	1
思考力	問題の要点を把握して、根拠をもとに論理的に考える力	☐ 現状を正しく理解するための情報収集や分析ができる ☐ 物事の原因と結果を区分したり、問題の背景を考察することができる ☐ 問題を解決するために見通しを立て、順序立てて考えることができる	5	4	3	2	1
実行力	目標に向かって行動する力	☐ 自分の考えをもち、それらを確信に実行することができる ☐ 設定した目標達成に向けて粘り強く取り組むことができる ☐ 困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる	5	4	3	2	1
対応力	状況を判断して関係や流れがうまくいくように行動する力	☐ 相手やその場の状況を配慮しながら、柔軟に対応することができる ☐ 自分の役割と他者の役割を的確に判断し、取り組むことができる ☐ 物事が良い方向に流れるよう、まわりに働きかけることができる	5	4	3	2	1
交渉力	人との関わりを踏まえ、働きかけて相互理解へ導く力	☐ 取り決めのための話し合いの場を持ち、合意をめざすことができる ☐ 協力することの意義や理由を、相手に対して明確に伝えることができる ☐ 周囲の人に対して効果的に働きかける手段を活用できる	5	4	3	2	1
会話力	相手と意思疎通(そつう)を図る力	☐ 自分の意見を具体的にわかりやすく伝えることができる ☐ 相手の意見を丁寧に聞き、素直に受け止めることができる ☐ 相づちや共感により、相手に話しやすい状況を作ることができる	5	4	3	2	1
計画力	現状を把握し、解決に向けて筋道を立てる力	☐ 実現のために段階ごとにすべきことを把握することができる ☐ 作業の過程を明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる ☐ 必要に応じて他者の意見も積極的に計画に取り入れることができる	5	4	3	2	1
規律性	社会のルールや人との約束を守る力	☐ 社会のルールやマナーの必要性を理解し、それらを守ることができる ☐ 他者に社会のルールやマナー、また約束を守るように促すことができる ☐ 異なる立場を理解しながら社会のためのルールや約束を結ぶことができる	5	4	3	2	1
運営力	違う立場の人々の集まるチームを適切に運営する力	☐ 自分の意見を持ちつつも、他者の意見や立場も理解することができる ☐ チームの目的を明確にして、メンバーに働きかけることができる ☐ 異なる立場の人々とも力を合わせて物事を達成することができる	5	4	3	2	1
貢献性	社会の担い手として役割を自覚して、参画する力	☐ 地域や社会に参画することの意義や役割について理解している ☐ 地域や社会に参画して、自分の役割を果たそうとする意思がある ☐ 地域や社会の担い手として、使命感をもった取り組みができる	5	4	3	2	1

熟議に参加される皆様へ

まずはこの書類（資料A）をお読みください。

「熟議 2016 in 兵庫大学」の進め方

1. 熟議はなぜ必要なのでしょうか？

「熟議 2016 in 兵庫大学」にご参加いただき、ありがとうございます。

最初に「熟議」についてご説明します。熟議は、「熟慮」と「議論」を併せた言葉です。しばしば、よく考えて議論をする、との意味で「熟慮の国会」などの使われ方もありましたが、本来、そうしたよく考え議論をする、だけではない意味が「熟議」にはあります。

日本では、選挙により国や地方の代表者を選ぶことにより、社会を動かし、政策を進めています。国会では私たちの代表者が議論を交わし、また市や県でも、選挙で選ばれた議員と市長・知事が議論を交わし、よりよい社会のための活動を行っています。この間接民主主義による政治は、効率性などの面で優れていると言われています。

しかし、自分たちが生活をする小さな地域（コミュニティ）のことについて決めたり、課題を解決したりするには、今の政治の仕組みだけでは難しいのです。こんなことを想像してください。

大きな地震が自分の住んでいる地域を襲った場合、狭い道路が入り組んでいるこの地域では、高齢者などを助け出して避難をすることが難しいであろう。そこで、市の消防局に、大地震の際には、この地区に優先的に消防車や救急車を派遣して欲しい、と要請を行った。しかし、市民全体の公平な扱いの点から「それはできない」との回答であった。いざとなれば、何とか住民同士で助け合い、避難しなければならなくなった。

住民が課題に対して熟慮するとともに、それについて議論を行う「熟議」がここから始まります。生活する地域ごとに課題が異なり、住民も様々です。誰が、何を、どのようにすることが地域にとってよいことであるのか、「熟議」によって示すことが必要とされるでしょう。そして「熟議」は選挙を通して参加する現在の政治の動きを助ける、新しい政治参加であり、主権者として地域に関わる手法でもあるのです。

2. 熟議は話し合いとは違うのですか？

課題について考え議論をする重要性はご理解頂いただけましたか？

これまでも、学校場で、あるいは職場や地域場で、課題を解決するために話し合いをしてきた経験がおありだと思います。これは民主的な方法であり、正しいやり方と教わってきました。こうした、話し合いと「熟議」とはどこが異なるのでしょうか。

「熟議」は熟慮し議論するもので、熟慮が議論の前にあります。話し合いで出てくる新たなアイディアは貴重ですが、一方で、事前の情報が不足し、参加者が互いに認識を共有しないまま話し合いがおわったり、結論が必ずしも現実を反映していなかったり、というこ



ともしばしばあります。

熟慮をすることで、課題を理解し、自分の考えを整理しておけば、実のある議論ができると思います。「熟議」は、そうした熟慮の段階を議論の前に持つことで、議論だけよりも、課題の解決や方針を立てることに近づくことができると考えられています。

3. 「熟議 2016 in 兵庫大学」はどのように進められますか？

兵庫大学では、この熟議を A「熟慮の段階」、B「議論の段階」、C「共有の段階」、D「振り返りの段階」、そして E「活動の段階」の 5 つに体系化しています。これが兵庫大学熟議手法です。これに沿って、「熟議 2016 in 兵庫大学」の進め方を説明します。

右にチェックボックスがありますので、チェックをしながら読み進めてください。

A. 事前に学習して認識を持ちましょう（熟慮の段階）

まず「熟慮の段階」の説明をいたします。「熟議 2016 in 兵庫大学」のテーマである、「今、大地震が加古川地域を襲ったら？」についての共通の情報を得て頂き、それらを踏まえて熟慮をして頂きます。なお加古川市、高砂市、稲美町、播磨町を「加古川地域」と定義していることをご了解ください。

熟慮のために兵庫大学では、2 回の講演会を用意しています。講演会に出席することで、熟慮のための基盤を作ることができます。また、インターネットでも熟議の概要等をお届けしています。

① 講演会の日程を確認してください

熟慮の機会として講演会があります。ホームページで日程を確認してください。

② 「熟議 2016 in 兵庫大学」のページをご覧ください

下記のアドレスにて、「熟議 2016 in 兵庫大学」のホームページをご覧ください。パソコンの他、スマートフォンからでもご覧いただけます。「兵庫大学」+「熟議」でも検索いただけます。

[http:// www.hyogo-dai.ac.jp/jukugi/](http://www.hyogo-dai.ac.jp/jukugi/)

このページでは、皆様に対して、熟議の解説、関係資料、過去の報告書などを提供しています。ご意見、ご質問も承っております。

③ 講演会を受講してください

2 回の講演会を受講して下さい。講演会では、事前の学習が出されることもありますので、それらについてもきちんと答えてください。（大学生・高校生はワークショップの実践研修にも参加してください。）

1.平成 28 年 10 月 22 日(土) 10:00～12:00 兵庫大学 17-407 教室
テーマ 地震災害のメカニズムと地域に求められる対策
講 師：紅谷 昇平（兵庫県立大学防災教育研究センター准教授）

事前の学習

講演会日程を確認

右欄にチェックを
してください。

☐

ホームページを見る

右欄にチェックを
してください。

☐

講演会を受講

右欄にチェックを
してください。

☐

2.平成 28 年 11 月 5 日(土) 15:00～17:00 兵庫大学 17-407 教室

テーマ：災害支援とボランティア

講 師：宮本 匠（兵庫県立大学防災教育研究センター講師）

* 講演会開催日は、兵庫大学スクールバスにご乗車いただけます。別紙スクールバス乗車許可証をご利用ください。

④ アンケートに回答をしてください（11 月 8 日に用紙を発送します）

資料 B『熟議 2016 in 兵庫大学』参加者・アンケート」にご回答ください。集計を致しますので、個人情報が出ることはありません。

⑤ 資料を郵送してください

以上、すべての作業が終わりましたら、資料 B『熟議 2016 in 兵庫大学』参加者・アンケート」を返送用封筒でご返送ください。

⑥ 今後もホームページをご覧ください

ホームページを通して、本学から熟議の情報を提供いたします。高校生、大学生を対象には、議論の方法を学ぶ機会もあります。そうした情報を随時掲載いたします。

B. お互いの認識を出し合い、議論をしましょう（議論の段階）

それぞれの方が熟慮をした結果を一つの場に持ち寄り、それを開示し話し合う「議論の段階」となります。熟慮の段階では、大地震が発生した後の、被害状況や被災された方々の復旧、復興への歩みなどを学び、考えてこられたと思います。議論の段階では、そうした熟慮を踏まえ、今、加古川地域を大地震が襲った時の備えとなる地域のありかた、人々の行動について議論をして頂きます。

11 月 20 日（日）に、会場となる兵庫大学 5 号館 1 階のラーニングコモンズにお越しくださいその際には、この「資料 A」、その他各自で必要と思われる参考資料をお持ちください。

会場では、指定されたテーブルにおつきください。

熟慮をされた内容をもって議論に臨むことができます。

次に、議論の進行について説明をいたします。議論は 2 段階で行います。

① 地震の被害を減らすための防災の取り組み

地震の発生を止めることはできませんが、備えることにより、被害を小さくすることは可能です。どのような防災の取り組みが必要か、各テーブルで議論をします。

議論の進行は、会場のメインファシリテーターが行います。その進行に合わせ、各テーブルのファシリテーターが具体的な指示を行いますので、どのように議論を進めればよいかという不安をお持ちにならなくても大丈夫です。また会場には専門家も待機していますので、テーブルでの議論の中で、専門性について判らないことがあれば、どしどし聞いてください。

テーブルでの議論の結果、どのような防災の取り組みがあるのかを提出してください。これで最初の段階の議論は終了です。

昼食は兵庫大学で用意をしています。

資料 A

資料 B に回答

右欄にチェックをしてください。

☐

アンケートを返送

右欄にチェックをしてください。

☐

ホームページで情報確認

右欄にチェックをしてください。

☐

議 論

資料を用意、持参

右欄にチェックをしてください。

☐

テーブルに着く

右欄にチェックをしてください。

☐

防災の取組について議論する

右欄にチェックをしてください。

☐

資料A

② 防災の取り組みのための具体的なアイデア

午後から始まる、第2段階では、防災の取り組みを解決するために、具体的なアイデアを話し合います。防災の取り組みに必要な、防災グッズを考えても良いかもしれません。どうすれば、取り組みが盛り上がるのか、イベントを行うアイデアもあるでしょう。具体的なアイデアをまとめるまで、テーブルで議論をして、まとめて頂きます。

C. 議論の結果や結論を共有します（共有の段階）

各テーブルでの議論が終われば、その結果を参加者全員が共有し、理解することが「共有の段階」です。

①他のテーブルでの議論を知る

各テーブルから代表者が、課題とテーブルで話された結果を持ちより、メインファシリテーターの司会の下、それらについて議論を深めます。代表者以外の方々も、それをしっかりと聞き取り、随時意見を述べてください。会場の専門家からも、それぞれ専門的なお立場からお話を聞く事もできるでしょう。

議論の共有の際、意見が異なることを恐れてはいけません。恐れるべきは、そうした議論のできない社会です。

②アイデアコンテスト

最後にアイデアのコンテストを行います。アイデアコンテストは出された防災の取り組みの具体的なアイデアの中で、是非とも実現してみたい、やってみたい、というものに投票を行います。コンテストといっても、アイデアの優劣を競うのではなく、熟議の成果を発揮し、それを地元に持ち帰り、実現するための方法です。

D. 仲間づくりと自分の成長（振り返りの段階）

さて、議論の共有も終わりました。皆様一人一人の心の中で、地域づくりへの認識はどのように変わりましたか。振り返るため熟議当日『熟議 2016 in 兵庫大学』参加者・アンケート（事後）」にご回答ください。

もう一つ重要なことが、「熟議 2016 in 兵庫大学」の成果を発揮するための仲間づくりです。テーブルで一緒になった人たちや、意見を交わした人たち、自分の活動を紹介したりして、年代の違いを超えて、これから活動を共にする仲間を見つけてください。

E. 今後の活動（活動の段階）

今回開催した「熟議 2016 in 兵庫大学」での仲間とともに、その成果を今後の地域での活動を行うことが大切です。それぞれの立場で、それぞれの考え方をもち、共に活動することが、熟議の最大の成果となります。兵庫大学・兵庫大学短期大学部は、そのようなあなたをこれからも応援します。

アイデアを具体的にまとめる

右欄にチェックをしてください。

☐

議論の共有

他のテーブルの結果を聞く

右欄にチェックをしてください。

☐

アイデアコンテスト

右欄にチェックをしてください。

☐

振り返り

事後アンケートに回答

右欄にチェックをしてください。

☐

今後の活動

活動を行う

右欄にチェックをしてください。

☐

熟慮講演会②「災害支援とボランティア」スライド

熟慮 2016 in 兵庫大学 事前セミナー
災害支援とボランティア
～熊本地震の被災地から考えるボランティアの今と未来～

宮本匠
兵庫県立大学防災教育研究センター 専任講師

1

テーマ

- ・災害時のボランティア活動のあり方について、ボランティアの本来の意味をあらためてふりかえった上で、災害ボランティア活動の現状と課題を主に熊本地震の事例を通して議論し、今後の災害ボランティアの望ましいあり方について理解を深める。

2

ボランティアって何？

3

災害って何？

4

災害とは？

- ・災害因(hazard) × 社会(society)
- ・災害には顔がある

5

減災って何？

6

防災 減災

7

「孤独死」



8

孤独死が問うたもの

- 一人で亡くなることが問題なのか？
- 「独り」で亡くなった（「死」）ことではなく、「生」が孤独であったことが問題
 - 緩慢な自死
- 減災：災害直後の生き死にだけでなく、その人が生き生きと生きているのかをも含んだ概念

9

熊本地震から考える

10

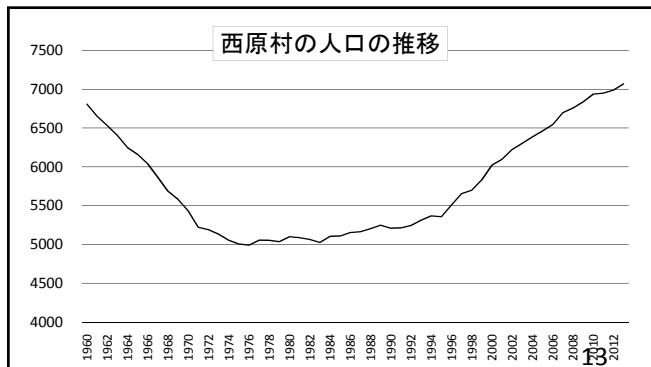


11

西原村

- 人口：6902人
- 世帯数：2585世帯
 - * 2016年7月末現在
- 高齢化率：28.0%（全国平均は22.8%）
- 1960年に、阿蘇郡山西村と上益城郡河原村が合併し、両方の一字をとって西原村に
- 農業：サツマイモ、里芋、イチゴ、トマト、メロンなど。
- 観光：南阿蘇への玄関口
- 伝統的な集落と新興住宅地

12



西原村の地震被害

- 4月16日の本震(震度7)による被害
 - 余震、大雨による被害の拡大
- 人的被害:死者5名
- 家屋被害:全壊505棟、半壊以上1281(調査数2831棟) ※8月15日時点
- 俵山トンネルの崩落(国の直轄で年内には復旧か)
- 農業被害
 - 大切畑ダムやため池の被害
- 水道の被害(村営水道と簡易水道)

14

西原村の支援へ

- 4月16日朝から熊本入り(5月10日まで)
- 被災地NGO協働センターのスタッフと報道されていない地域を重点的にまわる
 - 菊池市の山間部、南小国町、産山村・・・
- 4月20日西原村へ
 - 被害が甚大な割に、支援の手が少ない
 - 社協職員が5名(十地域包括支援センターの職員が1名)
 - 村内にNPOは1つ(たんぼぼハウス)
 - ボランティアセンターの立ち上げ・運営の支援へ

15



16



17

西原村災害ボランティアセンター設立へ (4月24日@西原村)



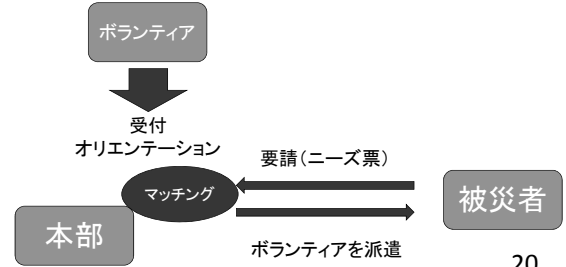
18

西原村災害ボランティアセンター立ち上げ支援

- ・西原村災害ボランティアセンター
 - ・西原村社会福祉協議会が中心(局長が元総務課長)
 - ・地元(藤本先生(熊本学園大、村民)、寺本わかばさん(神大2回生))
 - ・西原村役場から1名
 - ・応援社協(近畿ブロックを中心に)
 - ・外部(被災地NGO協働センター、ハビタット、その他NGO、NPO、中越関係、地域おこし協力隊ネットワーク、兵庫県立大)
- ・「ボランティアを管理するのではなく、信じる」を合言葉
 - ・サテライト方式(5月末まで)
 - ・7月29日以降は「西原村復興支援災害ボランティアセンター」に
 - ・農業ボランティア等の活動を展開

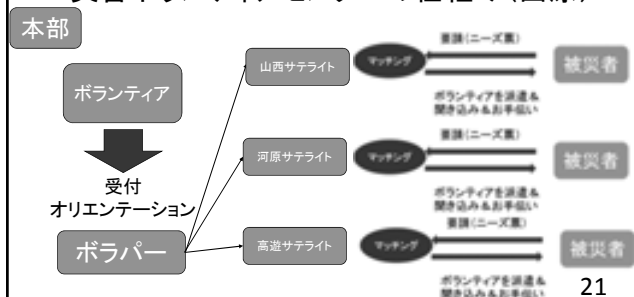
19

災害ボランティアセンターの仕組み(通常)



20

災害ボランティアセンターの仕組み(西原)



21

サテライト方式で可能になったこと

- ・地域と関係をつくりながら、ボランティアが活動する
 - ・地域住民自身も、ボランティアコーディネートを担う
 - ・一方で、抜けがないか、時にはフォローも必要
 - ・サテライトが地域住民が立ち寄れる場所になる
- ・より被災地域の特徴にあわせたボランティアコーディネート体制をつくることできる

22

サテライトごとの特徴

- ・山西サテライト
 - ・山西小の隣に設置
 - ・担当エリアは、どちらかというと「集落」
 - ・担当地域の多くが被害大、サテライトから徒歩で歩ける範囲に活動場所が多く、区長との連携を密に取りながらボランティアが活動
- ・河原サテライト
 - ・河原小の隣に設置
 - ・担当エリアは、どちらかというと「集落」
 - ・担当地域の被害がまばら。活動場所が、サテライトから徒歩で移動できない場所が多く、車で移動したり、ニーズ班が調査を積極的に実施
- ・高遊サテライト
 - ・新興住宅地の中の民有地(芝畑)に設置
 - ・担当地域は新興住宅地、区長さん&学校のPTAネットワークが活躍
 - ・ボランティアの宿泊場所も併設される

23



24

西原村VCで対応した事例

25

応急危険度判定の「色」で判断しない



26

建築士さんとの連携



27

六地藏の復旧(6月15日) —「おうちの片づけより、お地藏さんが気になる」—



28

重機ボランティアとの連携



29

農業復興ボランティア



30

農業復興ボランティア

- 「から芋の苗付けが・・・」
- 反対の声もあったが「生活支援」として整理
- 元地域おこし協力隊の河合氏が中心
- 延べ2534人が参加（内リピーターが8割！）
- 「作業」だけでなく「気持ち」を支える
- 西原村のファンづくりにつなげる

31



32

「西原村百笑応援団」に発展

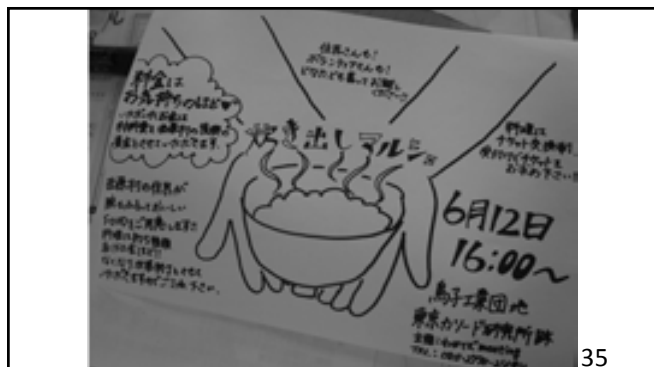
- 9月から農業体験プログラム「西原村百笑応援団」
- 農家が主体の組織へ
 - 農業体験の受け入れとし、農家からは会費を徴収、それで事務局を運営する
 - シルバー人材と連携する
- シルバーのつくったお弁当をボランティアが購入し、地域経済の循環へ

33

「わかばmeeting」の発足

- 寺本わかばさん(20)
 - 西原村出身
 - 神戸大学在学中
- 「西原の地元の人の活躍する場所をつくりたい！」
 - 旧住民と新住民
 - 西原のファンを増やしたい！
- 炊き出しマルシェ、フリーペーパーの発行、無料食器市、まちあるき

34



35



36

フリーペーパー「DOGYAN」



37

「まちあるき」や「食器配布」



38

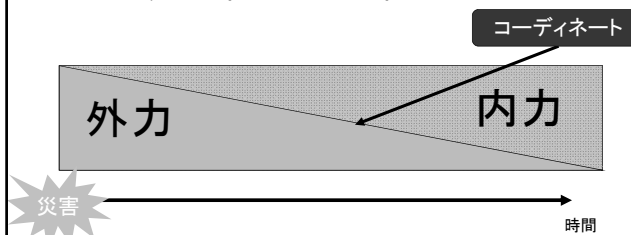
炊き出しでのエピソード

- 「いも天と豚汁があるなら、おにぎりは地元のお母さんにつくってもらいましょうか」



39

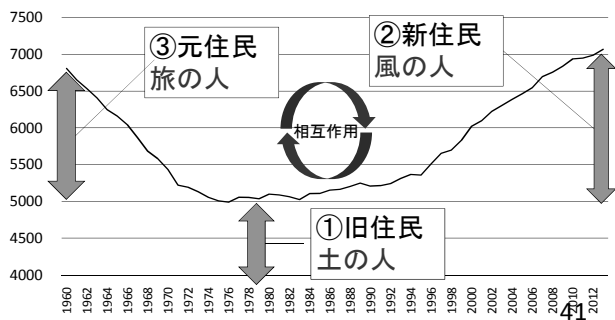
ボランティアのコーディネートって？



新潟NPO協会の金子洋二さんの図(「中越の経験」、2006年)をもとに作成

40

西原村民のバラエティ



41

西原村の強み「西原村民のバラエティ」

- 土の人(旧住民)
 - ・被災直後から避難所などで活躍
 - ・「住民の誰一人も役に立たない人はいない！」
- 風の人(新住民)
 - ・独自のネットワークで外部と西原村のつなぎ役に
 - ・わかばミーティング
 - ・「避難所でよくしてもらった。その恩返しをしたい」
- 旅の人(元住民)
 - ・絶妙な距離感で西原村のつなぎ役
 - ・Noroshi西原

42

西原村の強み「外部支援者のバラエティ」

- ・（経験のある、柔軟な）応援社協の皆さん
 - ・マニュアルにとらわれずに寄り添う活動
- ・（経験のある）NGO
 - ・サテライト方式、「赤紙」家屋の支援などを提案
- ・県外を含めた多くのボランティア
 - ・V受け入れ制限をしなかったため集中
- ・西原村がオープンなためにやってくるNPO／NGO
- ・ボラセンにとらわれないボランティア
 - ・農ボラ、裏ボラ、野良ボラ…
- ・地域おこし協力隊ネットワーク
 - ・農業ボランティアの運営に力を発揮

43

西原村の復興のポイント

- ・災害を機に交流した多様な人々の相互作用をどのように活かせるか
- ・土の人（旧住民）、風の人（新住民）、旅の人（元住民）がいかにもやいなおしができるか
- ・西原村がオープンであったためにやってきた多様な外部支援者をどう活用できるか

44

西原村の事例における課題

- ・マニュアルにとらわれないということは……
 - ・どのように共通認識をもつのか
 - ・人が交替する中でどのように共有するか
 - ・どのようにブレーキを踏むか
 - ・危険な作業も

45

西原村の事例から考える 今後のボランティアのあり方について

- ・ボランティアとは何だったのかの問い直し
- ・地域特性を活かしたボランティアセンターの運営
 - ・災害＝災害因×社会
 - ・災害支援＝教訓・経験×地域特性
- ・加古川地域で災害が起きたときに、どのようにボランティアを受け入れられるか

46

「熟議 2016 in 兵庫大学」参加者・アンケート

この調査は記名式のアンケート調査です。「熟議 2016 in 兵庫大学」の開催に先立ち、テーマである「今、大地震が加古川地域を襲ったら？」に関する考え方、熟議についての認識などを確認するために行います。ご回答は選択肢の番号を右欄に記入するか、指示に従い、直接、記入してください。

なお、当該調査票は兵庫大学にて厳重に保管し、統計的に処理をした結果のみを公表する予定です。調査票にご記入頂くお名前等は、主に熟議後のアンケートとの照合を図るためであり、熟議の実施以外の用途に用いることはございません。ご理解の上、ご回答をお願いいたします。

当該アンケートの回答期限は平成 28 年 11 月 16 日（水）です。返信用封筒にてご回答ください。ご多忙のおり、ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

1. 下記の欄に、あなたのお名前を下記にご記入ください。

お名前	
-----	--

2. 学校生活や社会経験の中で、ワークショップや市民会議、グループ討議など「参加者が議論し、対策や方針を作成する」というご経験はありましたか。1つ選び、右欄に番号を記入してください。

- ① 現在も多くの機会を経験をすることがある（年間5回以上が目安）
 ② 機会は少ないが、現在でも経験をすることがある
 ③ 以前には経験をしたことがあるが最近はない
 ④ これまでほとんど経験をしたことがない

--

3. 「参加者が議論し、対策や方針を作成する」という方法について、ご経験を踏まえ良い点と悪い点を次の一覧より1つずつ選び、それぞれ右欄に番号を記入してください。なお、良い点、悪い点がない場合、それぞれの欄は空白のままにしてください。

〈良い点〉

- ① 多様な考えを知る機会がある
 ② 少数意見も平等に扱われる
 ③ 決定した後の行動が容易である
 ④ 参加者の満足度が高い
 ⑤ わからない
 ⑥ その他（ ）

--

〈悪い点〉

- ① 時間や労力がかかりすぎて非効率
 ② 議論だけではまとまらず決められない
 ③ 立場が上の人意見に影響されやすい
 ④ 感情的な対立が残ってしまう
 ⑤ わからない
 ⑥ その他（ ）

--

4. 「熟議 2016 in 兵庫大学」への参加の以前から、熟議という言葉をご存知でしたか。

- ① 熟議の内容を含めよく知っていた
- ② 言葉では聞いたことがあった
- ③ 今回初めて知った

☐

5. 「熟議 2016 in 兵庫大学」に参加しようと思われたのはなぜですか。次より 2 つ以内で選び右欄に番号を記入してください。

- ① 市民の議論により政策の方向を決する熟議という方法に関心があるから
- ② 「今、大地震が加古川地域を襲ったら？」というテーマに関心があるから
- ③ 大学が主催する事業に参加したいから
- ④ 地域での活動全般に関心があるから
- ⑤ 学校の先生や、属する団体の関係者から参加を勧められたから
- ⑥ 特に強い理由はないが、なんとなく参加をしたいと思ったから
- ⑦ その他（

)

6. 「熟議 2016 in 兵庫大学」の資料やホームページをご覧になり、また講座を受け、今回の熟議の進め方についてご理解をいただけたでしょうか。1 つ選び右欄に番号を記入してください。

- ① 十分に理解することができた
- ② 大体は理解することができた
- ③ あまり理解することができなかった
- ④ ほとんど理解することができなかった

☐

7. 「熟議 2016 in 兵庫大学」での「議論の段階」において、あなたはどのことに最も大きな期待を持っておられますか。下記から 1 つ選び右欄に番号を記入してください。

- ① 自分の意見を述べる機会があることへの期待が大きい
- ② 他の人の意見を聞くことへの期待が大きい
- ③ どのように議論が進むのか、進め方を知る期待が大きい
- ④ 結論や提案がどのようなものになるのか、結果の期待が大きい
- ⑤ 多くの人と交流したり話をする事への期待が大きい
- ⑥ その他（

☐

)

テーマの「今、大地震が加古川地域を襲ったら？」について伺います。

8. テーマは加古川地域やその住民にとって重要な課題になると思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを一つ、選んでください。

(選択肢と回答欄は次ページにあります)

- ① 大変重要な課題である
- ② 重要な課題ではあるが、他に優先すべき課題が多い
- ③ 地域の課題の一つであるが、重要とは言えない
- ④ 大地震の可能性は低く、地域での課題となるものではない
- ⑤ その他（

)

9. 事前の講演を受講され、またご自身で調べるなどして、テーマについて十分に熟慮され、理解が深まりましたか。

- ① 十分に理解することができた
- ② 大体は理解することができた
- ③ あまり理解することができなかった
- ④ ほとんど理解することができなかった

10. 今、加古川地域を大地震が襲った、と想定とした場合、次の事柄についてあなたの関心の強さを 5 段階で表し、あてはまる番号に○を付してください。

	高い ←	→ 低い			
①住宅・建物の倒壊	5	4	3	2	1
②情報の入手が困難になること	5	4	3	2	1
③周辺での火災の発生	5	4	3	2	1
④津波が襲ってくること	5	4	3	2	1
⑤避難にかかる時間や移動する体力	5	4	3	2	1
⑥近所の高齢者や障がい者の避難支援	5	4	3	2	1
⑦家族との連絡	5	4	3	2	1
⑧支援物資が入手できるまでの期間	5	4	3	2	1
⑨避難所の状況（混雑や安全性）	5	4	3	2	1
⑩避難生活に伴う健康の悪化	5	4	3	2	1
⑪ボランティアによる支援	5	4	3	2	1
⑫職場や学校の再開	5	4	3	2	1
⑬住宅の再建など生活の場所の確保	5	4	3	2	1

11.加古川地域を大地震が襲った場合を考えて、下記のような考え方についてあなたは、賛成ですか、それとも反対ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

		大いに賛成	やや賛成	普通	やや反対	大いに反対
1	地震に備える防災倉庫建設のため公園を縮小するなど防災のためなら住民に不便があっても仕方がない。	5	4	3	2	1
2	科学技術が発展すれば大地震による被害を大きく抑えることができる。	5	4	3	2	1
3	防災は主に自治体や政府の仕事であり、住民の役割は限定されている。	5	4	3	2	1
4	被害を抑えるためには巨大な堤防の建設など目に見える施設や設備に頼る方がよい。	5	4	3	2	1
5	人と人との繋がりや信頼が強いほど、大地震が襲った場合に避難し、生き残ることができる。	5	4	3	2	1
6	高齢者や障がい者など災害弱者の方を最優先で避難させ、安全を確保することが重要である。	5	4	3	2	1
7	避難所では、全くの他人の助けよりも、近くの住民だけで集まって助け合うことの方が安心である。	5	4	3	2	1
8	被災した人は学校や職場に通うよりもボランティアとして地域の復旧に力を優先させるべきである。	5	4	3	2	1
9	大地震の後、支援や復旧のためのボランティアを受け入れる準備が重要である。	5	4	3	2	1
10	大学に大地震に備えるため果たすべき役割がある。	5	4	3	2	1

12.あなたのご所属先について1つ選び、右欄に番号を記入してください。

- ① 高等学校（高校生） ② 大学（大学生） ③ 民間企業
 ④ 自治体・政府（公務員） ⑤ NPO・各種団体 ⑥ その他（ ）
 ⑦ 無職

13.熟議の当日、会場で記録のために写真撮影を行います。あなたがお顔など個人が特定される写真を撮影されることを望まれない場合、右欄に✓を入れてください。使用用途は参加者相互の閲覧と報告書への掲載です。

☐

ご協力、ありがとうございました。

寄稿

今井俊介

元裁判官、現弁護士
元兵庫大学教授

◆「方丈の庵」を訪ねてみませんか

ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつびて、久しくとどまりたる例(ためし)なし。世の中にある、人と栖(すみ)かと、またかくのごとし。

今から 60 年前、高校で「奥の細道」、「徒然草」、「源氏物語」等と並んで学んだ鴨長明の「方丈記」の出だしである。5 つの生き地獄(安元の大火、治承の辻風、突然の遷都による人心の荒廃、元暦の大地震、養和の大飢饉と疫病)を経験した長明にはとうてい適わないものの、長明の文体には若いころから親しみを覚えていた。社会を観る鋭い眼力、小気味良い文体・・・以来この本を一時たりとも手元から離すことなく、要所要所の文章は空で言えるくらいになっている。

長明よりも長く生きながらえている自分ではあるが、(無情)の意味が少しわかりかけてきたように思う。

長明は下賀茂神社の禰宜の地位に就くべきものであったが、父親が死去し身内の紛争があつて身を引き、日野山の奥に仮の庵を作り、1 人住まいを始める・・・組み立て家具材料は、台車 2 台であったという。

「方丈」とは 3 メートル四方、今で言う 4 畳半の間である。その中に経机、その上に法華経經典、壁に阿弥陀仏、普賢菩薩の絵像、寢床(わらびの穂)、琴・琵琶の楽器があり(「起きて半畳、寝て一畳」)、自分ひとりの住处としては何の不足も無く暮らした。

四季折々の自然環境に恵まれ、遙か遠く下のほうに京の街が臨める。山のふもとに番小屋があり、そこに 10 歳になる男の子がいて気があつて一緒に野山を散策し、食料のための野草を採取したりして童心に返っている。

自分の命は天に任せ、四季折々の美しい景色を味わって、誰に気を使うことなく文学と音楽の優雅な生活に没頭している。「愁え無きを愉しみとす」・・・なんとも優雅である。フリードリッヒ大王の建てたサンスーシ(Sanssouci)宮殿もフランス語で「愁え無き」宮殿という意味である。

しかし仏は、長明にお前の心は欲望に染まったままだ、何事においても執着心を持つてはならない、と言われる。そうすると「今、この仮住まいの小家を愛するのも罪となるのか?」どう考えたら良いのだろう。こんな極限的な生活で、自分がそれで良いと言っているのに仏はそれでもなお許されないのか。長明は自問しながら途方に暮れる。自分の舌に返答を任せた。すると舌は自然に動いて「南無阿弥陀仏」という念仏が口から

出た。これは仏に対する請い願うことの無い無心の境地から出たものである、と答えている。

この夏私は京都下賀茂神社に復元された長明の庵を觀に出かけた。酷暑の中、静かなたたずまいで、設計文どおり見事に復元されていた。物陰からふっと長明が現われたような気がした。

「長明さん仏のお諭しをどう考えておられるのですか。俗っぽい私に教えてください。」

「・・・・・・執着心を捨て・・ただひたすら念仏を唱えなさい・・・・・・・・・・」

(庵は、京阪電鉄「出町柳」駅下車、高野川沿いに北上し、札の森、京都家庭裁判所を過ぎ、広い下賀茂神社境内に入ったすぐ左側の小さな社の境内に復元されている。一度是非訪ねてください。)

参考

マグニチュード7.4と言われる元暦の大地震について

「そのさま、よのつねならず。山はくずれて、河は埋(うず)み、海は傾(かたぶ)きて、陸地(くがち)をひたせり。土烈(さ)けて、水涌き出で、巖割れて、谷にまろび入る。なぎさ漕ぐ船は波にただよひ、道行く馬は足の立ちどをまどはす。・・・・恐れの中に恐るべかりけるは、ただ地震(なみ)なりけりところぞ覚え侍りしか。」

海が傾いて海水が陸地に迫り、浸したという「つなみ」の描写・・当時一いまから800年前一の人としてはあまりにもクールでリアルです。

地震の恐ろしさをこれほど鮮明に伝える文章に接した事はありません。

今井俊介

元裁判官、現弁護士
元兵庫大学教授

◆「選挙民」を保護して下さい

今年は、選挙権年齢が 18 歳にまで引き下げられたこと、7 月には参議院議員選挙、8 月には東京都知事選挙、秋にはアメリカ大統領選挙と選挙の話題が絶えない。選挙権を行使することは民主主義の第 1 条件であるが、選挙の毎に投票数が公表されその低調さが指摘されてきた。特に地方選挙において数年間にわたるその地方の代表者が投票権者の半数若しくはそれ以下の人の投票で決められるというのでは、これが民主主義かと疑わしくなる。選挙民の良識と奮起に待つほかない。

一方自分自身で投票に行ったものの、選挙管理委員会のミスのため投票が出来なかったあるいは票が無効になったという報道に接すると胸が痛くなる。その責任につきあまり論じられていない。今回の参院選に関して、朝日新聞の報道によると

◎数地域の選挙区で選挙区と比例代表の投票用紙を間違えて渡したため計百数十票の投票が無効となった

◎兵庫県の某市で投票所を管理する課長が寝坊し、投票開始が遅れ、待っていた 25 人ほどの有権者のうち 7、8 人が帰ったとみられる

◎某市の小学校の投票所で入場整理券のバーコードを読み取るパソコン 3 台がすべて故障し、午後 6 時半ころ市選管に報告があったがこの際トラブル解消を待つ有権者の列ができ、男性の長男(18 歳)―高校生―は職員から「システム復旧のめどがたたない」と言われたため投票せずに帰宅した

◎その他期日前投票を済ませた有権者に再度投票用紙を交付したため二重投票がなされた

等驚くべき事態が相次いだ。

僅かな誤数など結果に影響を及ぼさない、とたかを食っているのでしょうか?しかし数票差で当落が決められ、同数のため当落決定手続を踏む例は皆無ではない。問題は係員から配布された投票用紙を疑うことなくそれに記入した投票が無効となったという投票者の心情、投票所に赴き、行列してまで投票しようとしたができなかった投票者の心情、これをどうくみとるか?一票を大切に使う投票者の心情を軽視すべきではない。投票所に行かなかった人には諸事情があるにせよ、投票しようとして赴いた人を非難すべきではない。特に今年から 18 歳になっての初めての投票に意気揚々と投票に臨んだであろうこの高校生にこの事態をどう説明するのか?

『私は・・・今年から一票を投じる権利を持つことが出来たのである。・・・初めて投票所に足を運び投票用紙を渡された時「自分も日本の一国民として政治に参加している」という大きな喜びと、一票を投じるまでの緊張感と投票者としての責任感のためだろう、渡された投票用紙一枚、鉛筆一本が非常に重く感じられた。投票用紙に書くまで少し迷ってしまったが、私は大切な一票を投じた。・・・初めての経験は終わったのだが、後悔が残る部分も少なからずある。・・・日頃から様々なメディアに触れておくべきだった・・・』
(平成 26 年 7 月 26 日朝日新聞『オピニオン&フォーラム』大学生岡田智美さん 19 歳の投書)

この高校生から岡田さんの言う「初めての投票に際しての喜び・責任・後悔」の機会を奪ってしまった。その責任は極めて重いというべきである。願わくはこの少年には次の選挙までには今回の悪感情を捨てて気分を立て直して今後の選挙に臨んでほしい。これらの事例に対処する有効な手立ては見あたらないが、憲法上の権利の実現という公営選挙の一翼を担う選管職員の真摯な反省及びこれらの者に対する指導に待つほかない。

付言

最近の問題事例

- ・ 3 年前の高松選管の白票水増し事件
- ・ 今回の参議院選

市選管が比例区の候補者の得票を 0 と公表 しかし間違いなく投票をしたとする数人がいたとして提訴

「熟議 2016 in 兵庫大学」参加者・アンケート

長時間の熟議での議論、お疲れ様でした。

この調査は記名式のアンケート調査です。閉会後にご記入頂き、グループファシリテーターにお渡し下さい。

アンケートは「熟議 2016 in 兵庫大学」の後、テーマである「今、大地震が加古川地域を襲ったら？」に対する考え方や熟議に対する印象がどのように変化をしたのかを確認し、政府、自治体への提言等に活用するとともに、今後の熟議事業に活用することをめざしております。

ご回答は選択肢の番号を右欄に記入するか、欄に記述をしてください。

なお、当該調査票は兵庫大学・兵庫大学短期大学部にて厳重に保管し、統計的に処理をした結果のみを公表予定です。調査票にご記入を頂くお名前等は事前のアンケートとの照合を図るため、他の用途に用いることはございません。ご理解の上、ご回答についてお願いいたします。

1. 下記の欄に、あなたのお名前を下記にご記入ください。

お名前	
-----	--

ここからは「熟議 2016 in 兵庫大学」に対しての皆様のご意見等について伺います。

2. 参加されて満足でしたか。1つ選び、右欄に番号を記入してください。

- ① とても満足
- ② まあ満足
- ③ どちらともいえない
- ④ やや不満足
- ⑤ とても不満足

3. 「熟議 2016 in 兵庫大学」の経験を、今後の活動で活かしたいと思われますか。1つ選び右欄に番号を記入してください。

- ① 積極的に活かしたい
- ② 機会があれば是非活かしたい
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり活かしたいとは思わない
- ⑤ どう活かせばよいのかわからない

4. 「熟議 2016 in 兵庫大学」は、これまでご経験のあった話し合いやワークショップなどと比べどのように思われましたか。それぞれの設問について、1つに○を付けてください。

		非常に思う	思う	どちらでもない えない	あまり思わない	全く思わない
1	熟慮の段階があるため、自分の意見を整理することができ、発言をし易かった	5	4	3	2	1
2	熟慮の段階があるため、他の人の意見も理解しやすく議論がスムーズだった	5	4	3	2	1
3	これまで経験してきた話し合いなどよりも、共通の基盤に立っての議論ができた	5	4	3	2	1
4	熟議を通して、テーマ（今、大地震が加古川地域を襲ったら？）について、興味や関心がより高まった	5	4	3	2	1
5	議論の内容が充実し、テーマに関する自分自身の知識などを深める機会になった	5	4	3	2	1
6	課題の解決に向けて、自ら実行することがより重要であるとの考えを持った	5	4	3	2	1
7	最初に自分が持っていた意見について変化をもたらすことになった	5	4	3	2	1

5. 「熟議 2016 in 兵庫大学」のように市民の行う熟議は、現在の行政でどのように役立つとお考えになりますか。それぞれの設問について、1つに○を付けてください。

		非常に思う	思う	どちらでもない えない	あまり思わない	全く思わない
1	市民による熟議は、行政のさまざまな政策にも取り入れるべきである	5	4	3	2	1
2	熟議は、国が行うような大きな政策についてよりも、身近な課題について行う方が効果は大きい	5	4	3	2	1
3	熟議の後に調査を行うことで、政策について人々の意向（民意）を知ることができる	5	4	3	2	1
4	互いの利益がぶつかるような場面でも、熟議によって対立を避けることができる	5	4	3	2	1
5	熟議は少数派の意見が多数派にも影響を与え、多数決でものごとを決めるよりも民主的である	5	4	3	2	1

8. 加古川地域を大地震が襲った場合を考えて、下記のような考え方についてあなたは、賛成ですか、それとも反対ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

		大いに賛成	やや賛成	普通	やや反対	大いに反対
1	地震に備える防災倉庫建設のため公園を縮小するなど防災のためなら住民に不便があっても仕方がない。	5	4	3	2	1
2	科学技術が発展すれば大地震による被害を大きく抑えることができる。	5	4	3	2	1
3	防災は主に自治体や政府の仕事であり、住民の役割は限定されている。	5	4	3	2	1
4	被害を抑えるためには巨大な堤防の建設など目に見える施設や設備に頼る方がよい。	5	4	3	2	1
5	人と人との繋がりや信頼が強いほど、大地震が襲った場合に避難し、生き残ることができる。	5	4	3	2	1
6	高齢者や障がい者など災害弱者の方を最優先で避難させ、安全を確保することが重要である。	5	4	3	2	1
7	避難所では、全くの他人の助けよりも、近くの住民だけで集まって助け合うことの方が安心である。	5	4	3	2	1
8	被災した人は学校や職場に通うよりもボランティアとして地域の復旧に力を優先させるべきである。	5	4	3	2	1
9	大地震の後、支援や復旧のためのボランティアを受け入れる準備が重要である。	5	4	3	2	1
10	大学に大地震に備えるため果たすべき役割がある。	5	4	3	2	1

熟慮の際の講演会についてどのように思われましたか。議論に役立ったかなど、ご感想をお書きください。

今回の熟議についてお気づきの点、ご意見等ご自由にお書きください。

ご協力、ありがとうございました。

自己認識シート(事後評価)

学校名		
科・コース	学年	年
氏名		

※下記に示された各能力に対し、今のあなたに当てはまると思われる「④レベルの欄」の1～5を○で囲んでください。

①能力	②能力の説明	③「できること」の具体例	④レベル				
			かなり自信がある	自信がある	ふつう	あまり自信がない	まったく自信がない
自主性	物事に進んで取り組む力	☐ 自分の目標や課題を定め、進んで取り組むことができる ☐ 物事に対して、興味や関心をもって意欲的に取り組むことができる ☐ 困難なことでも前向きに取り組むことができる	5	4	3	2	1
思考力	問題の要点を把握して、根拠をもとに論理的に考える力	☐ 現状を正しく理解するための情報収集や分析ができる ☐ 物事の原因と結果を区分したり、問題の背景を考えることができる ☐ 問題を解決するために見通しをもって、順序立てて考えることができる	5	4	3	2	1
実行力	目標に向かって行動する力	☐ 自分の考えをもち、それらを確実に実行することができる ☐ 設定した目標達成に向けて粘り強く取り組むことができる ☐ 困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる	5	4	3	2	1
対応力	状況を判断して関係や流れがうまくいくように行動する力	☐ 相手やその場の状況を配慮しながら、柔軟に対応することができる ☐ 相手の役割と他者の役割を的確に判断し、取り組むことができる ☐ 物事が良い方向に流れるよう、まわりに働きかけることができる	5	4	3	2	1
交渉力	人との関わりを踏まえ、働きかけて相互理解へ導く力	☐ 取り決めのための話し合いの場を持ち、合意をめざすことができる ☐ 協力することの意義や理由を、相手に対して明確に伝えることができる ☐ 周囲の人に対して効果的に働きかける手段を活用できる	5	4	3	2	1
会話力	相手と意思疎通(そつう)を図る力	☐ 自分の意見を具体的にわかりやすく伝えることができる ☐ 相手の意見を丁寧に聞き、素直に受け止めることができる ☐ 相づちや共感により、相手に話しやすい状況を作ることができる	5	4	3	2	1
計画力	現状を把握し、解決に向けて筋道を立てる力	☐ 実現のために段階ごとにすべきことを把握することができる ☐ 作業の過程を明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる ☐ 必要に応じて他者の意見も積極的に計画に取り入れることができる	5	4	3	2	1
規律性	社会のルールや人との約束を守る力	☐ 社会のルールやマナーの必要性を理解し、それらを守ることができる ☐ 他者に社会のルールやマナー、また約束を守るように促すことができる ☐ 異なる立場を理解しながら社会のためのルールや約束を結ぶことができる	5	4	3	2	1
運営力	違う立場の人々の集まるチームを適切に運営する力	☐ 自分の意見を持ちつつも、他者の意見や立場も理解することができる ☐ チームの目的を明確にして、メンバーに働きかけることができる ☐ 異なる立場の人々とも力を合わせて物事を達成することができる	5	4	3	2	1
貢献性	社会の担い手として役割を自覚して、参画する力	☐ 地域や社会に参画することの意義や役割について理解している ☐ 地域や社会に参画して、自分の役割を果たそうとする意志がある ☐ 地域や社会の担い手として、使命感をもった取り組みができる	5	4	3	2	1

熟議終了後の学生同士のグループワーク

学籍番号		氏 名	
------	--	-----	--

熟議への参加、ご苦勞様でした。これから振り返りのためのグループワークを行います。ワークショップ方式で話し合いをしましょう。

話し合う内容

①グループでは意見を大いに出し合い話したいことを全て話すことができましたか

②参加したメリットはどこにありましたか

グループワークとその発表の終了後、裏面のアンケート調査にお答えください。

熟議終了後の学生用アンケート調査

下記アンケートについて、選択肢に○を付してご回答ください。

0. 今回の熟議での役割をお答えください。

- ①ファシリテーター ②一般参加者

1.熟議に参加して、自分にとって得られたものは何ですか。(複数回答可)

- ①普段、接することのない地域の方々と知り合い話し合うことができた
- ②コミュニケーションについて自信を持てた
- ③ワークショップの手法を学ぶことができた
- ④他学科の学生と知り合うことができた
- ⑤防犯や防災のことについて知ることができた
- ⑥自分の考えに多くの賛同を得られ考えてきたことに自信が持てた
- ⑦その他（ ）
- ⑧特に得られるものはなかった

2.ワークショップで出た結論についてどう感じましたか。一つ選んでください。

- ①大いに賛同する ②賛同はしないが納得した ③あまり賛同することができない

3.後半のアイデアを具体的に企画する点についてどう思いましたか。1つ選んでください。

- ①ワークショップでの様々な意見が、1つの結論に集約された
- ②対立的な意見が見られ議論が白熱した
- ③どんどんと意見が変化し最初の考えとは違うものになった
- ④いろいろな意見が出てどれでも良いということになった

4. 今後、熟議などのワークショップに参加をする意向はありますか。一つ選んでください。

- ①学生への指導者として参加をしたい
②今後のワークショップに必ず参加をしたい
③時間や都合が合えば参加をしたい
④参加をしたいが学業が忙しくできない
⑤あまり参加をしたくない

5.ワークショップの進め方や事前準備についてお気付きの点や改善点を書いてください。